



座光寺石原遺跡 発掘だより

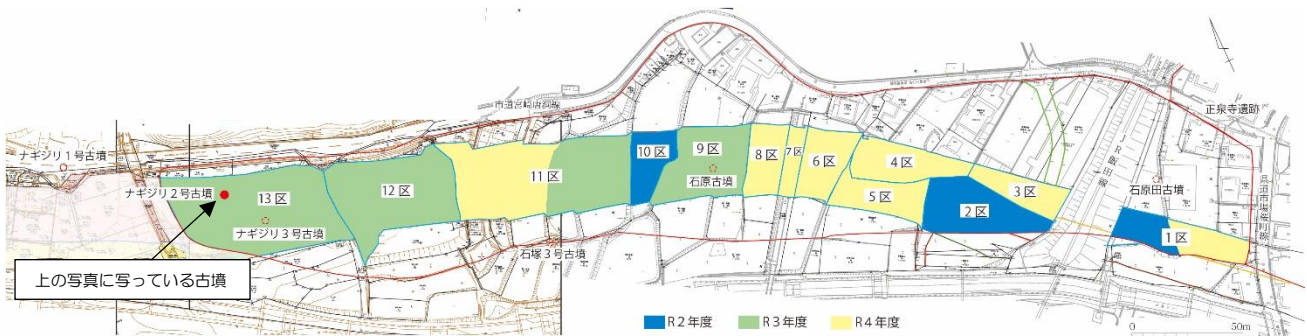
第8号



座光寺石原遺跡遠景（令和3年撮影）

■ 発掘調査3年目

座光寺石原遺跡は、土曾川中流域の谷部に東西約700mにわたって展開する遺跡です。座光寺スマートインターチェンジから中央新幹線「長野県駅（仮称）」を結ぶ座光寺上郷道路の建設事業に伴い、令和2（2020）年に発掘調査が始まりました。3年目となる今年は下図の黄色部分の調査を実施し、時期不明の土坑が数基と、縄文時代から近世の土器・石器が少量みつかりました。ほとんどの調査区で砂礫が堆積していたことから、この一帯は土曾川の氾濫原にあたり、遺構の密度はあまり高くなかったようです。



■ 3年間の調査成果

3年間の調査において、座光寺石原遺跡で発見された遺構は以下のとおりになります。

令和2年度	竪穴状遺構（古墳時代、時期不明） 土坑（古墳時代、平安時代） 集石炉（時期不明） 焼土跡（時期不明）
令和3年度	古墳、土坑墓（古墳時代）
令和4年度	土坑（時期不明）



作業風景

本遺跡の調査対象地も残りわずかとなりました。調査は来年度以降に引き継がれますが、引き続きご協力よろしくお願いいたします。

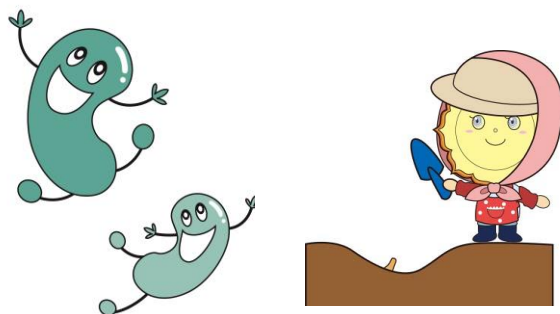
■ ナギジリ2号古墳の石室内の土から、玉を発見！

令和3年度調査で発見したナギジリ2号古墳では、石室内の床面の土を採取しました。今年度の発掘作業の合間にその土を洗浄したところ、鉄片や骨片のほかに、ガラス小玉や土製とみられる丸玉とみられる丸玉がみつかりました。

ガラス小玉は現在 32 個確認されており、土製の丸玉は 119 個を数えます。首飾りなどの装身具であったと考えられます。埋葬された人物は、どのように着飾っていたのでしょうか。



土洗浄でみつかったナギジリ2号古墳の玉（左：ガラス小玉 右：土製とみられる丸玉）



座光寺石原遺跡発掘だより 第8号
長野県埋蔵文化財センター飯田支所
〒395-0151 飯田市北方 297-5
TEL:0265-49-0736
<https://naganomaibun.or.jp/>
担当：伊藤 愛・遠藤恵実子